

2024年度 キャリアパス多様化支援セミナーⅢ 研究力アピール強化ワークショップ（第2回）
アンケート集計結果

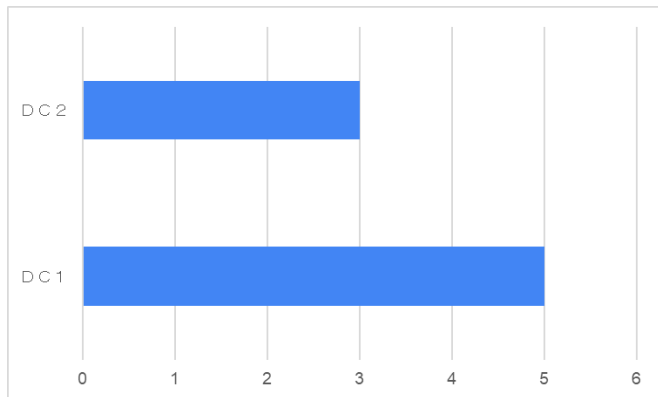
日時：2025年1月27日（月） 15:00~17:00

場所：学术交流会館 第1会議室

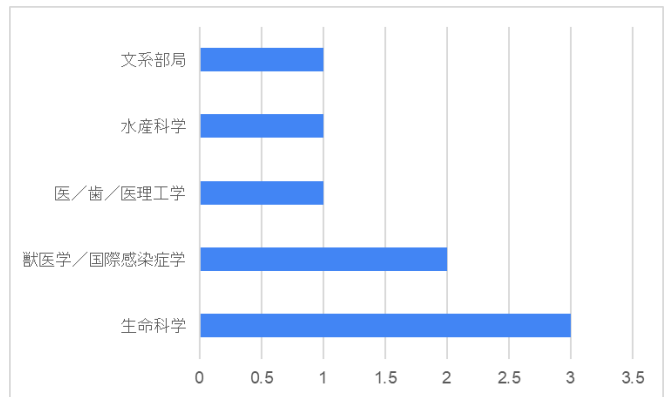
参加人数：8名

回答数：8名

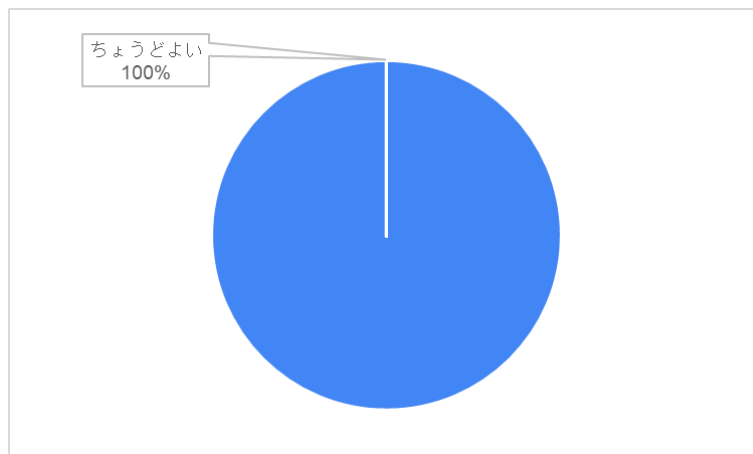
学年



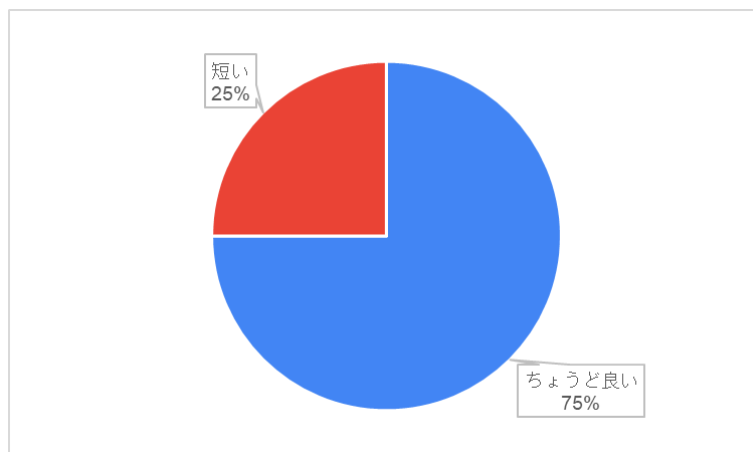
所属



本ワークショップの実施回数（2回）はいかがでしたか。



本ワークショップの開催時間はいかがでしたか。



本ワークショップを通して学んだことを教えてください。

自分を知ってもらうのが大切である事
他分野の人へどのように伝えれば自身の研究が伝わるか学んだ
自身の持つ研究力・スキルを効果的に伝える方法や、採用活動の場での研究紹介の肌感覚を主に学べた。
他の方の発表を見ることができたのが特に良かった。他の人がどんな風にアピールするのか、またそれがどのような感想を持たれるのかを知ることができ、貴重な機会だった。 文章が多いと伝わりにくい、というのをより実感することができ、「キーワードを図示する」ことを重視しようと思った。
相手が知りたい情報を相手に応じて取捨選択し、分かりやすく伝えることが最重要であることを再認識しました。
企業側は応募者のなにをみたくて面接をしているかについて学びました。企業の価値観に近い考え方で、自分の研究を選んだ理由として、より社会貢献ができるから、役に立つものを作りたいからなどの考えを面接官に伝えたほうが良いとのことでした。
博士課程での発表経験では研究内容をどれだけ正確に伝えるかフォーカスしたものばかりであるが、就活では求められるものが異なっており、研究内容と同時に自身が何を目標としている・どのような人間なのかを伝える必要があると学んだ。また、学識者以外に研究内容を伝える際には表現方法に工夫が必要であることを痛感し、深澤先生や他の学生のフィードバックが大変参考になった。
伝える相手によって持っている情報をどう選ぶか、またどの順番で話していくか、という面接に関わらず重要な技能を実践を通して経験することができた。

本ワークショップは今後どのように変えていけばよいと思いますか。

セルフ編集作業の時間はもっと取っても良かったかなと思います。
内部だけでなく外部へ発表するきかかもほしい
無理に変えていく必要はないと考える。
研究力をアピールするということは、研究力があることが前提だと思う。博士課程においてそれは最低条件であるが、最近自分には研究力があるのか、疑問に思えてきている。 ラボによっては、ラボで研究を行っているだけでは研究力が身につかない場合もあるのではないかと。 このワークショップに求めることではないとは思いますが、そもそもの「博士の研究力」を見つめなおしたり、それを鍛えようという試みを、M1~D1でもっと行うべきだったと思っている。何かそのような補完的な講習があれば嬉しかったなと感じている。
参加人数が10人以上になったらスケジュールがかなりタイトになりそうなので、今回のように10人未満に絞るか分割開催するのが良いと思います。
企業現場で働いている面接官の意見、感想もいただければと思います。
時間がかなり押しているように感じたので、もうすこし長めの時間での開催にするとよりよいと感じた。特に、ブラッシュアップの作業時間と、ブラッシュアップ後に深澤先生や他の学生からしっかりと意見をいただける時間が欲しかった。また、オンラインよりもオンサイト開催の方が、フィードバックのやり取りや発表がやりやすく学べるが多かった。
最終プレゼンについても、個別に終了後ではなく一言でも全体で確認できるフィードバックの時間があればよかった。時間の制約上どうしても駆け足になってしまうとは思いますが、各自のプレゼンの内容を掘り下げる時間はもう少しあったほうが受講者の次につながるのではないかと。

その他感想や弊センターへの意見、要望があればご記入ください。

発表練習を二回もできて、たくさんフィードバックももらえて、スライドを直す時間枠も設けられて、とても充実でした。